

平成30年度 事業報告の概括

1 法人全体の概括

①事業運営について

・高齢者福祉事業においては、妻有荘・つまりの里では退所や利用終了に対して新規の補充がままならい、という形での利用者の伸び悩みがあった一方で、アップルつまりでは利用者が大幅に伸びるなど、事業所間で明暗が分かれた状況でした。

・障害福祉事業においては、障害者グループホームを1棟開設し、順調なスタートを切りました。また、サービス等利用計画作成数も安定的に増やせるようになり、実績が積み上げられました。

②職員処遇・労務について

パート職員の雇用はできた一方で、特に資格を有する正職員の確保に難渋し、なかなか満足した人材確保ができませんでした。

働き方改革関連の制度改正に向けて、様々検討を重ねましたが、各部署間の業務体制の違いが大きく、法人統一の対応を打ち出すことはできませんでした。

2 各事業所の概括

①法人事務局

障がい者グループホーム開設に関して、定款変更等各種の手続きを行いました。人材確保については、人材紹介会社を通じた資格取得者の確保に努めました。コスト削減・経営状況共有については、周知が浸透しませんでした。

②養護老人ホーム妻有荘

措置事業については、欠員解消に向けた十日町市と津南町での定員枠の見直しが図られましたが、退所者が生じる度にその補充に時間がかかるなど、定員充足が進みませんでした。ショートステイも同様に、利用者確保が進まず前年度より実績が伸びませんでした。

③老人デイサービスセンターつまりの里（通所）

介護度の軽い（報酬単価の低い）総合事業の利用者は若干増えたものの、介護保険事業の利用者は減少し、全体的に利用者が伸び悩みました。そのような中で、体操やレクリエーションなど活動の見直しに取り組みました。

④老人デイサービスセンターつまりの里（訪問）

職員不足のため、派遣件数を減らさざるを得なくなり、前年の8割程度の実績となりました。年度途中で職員の勤務時間を増やして、派遣ニーズに対応してみましたが、実績の向上に至りませんでした。

⑤老人介護支援センターつまりの里

利用者の死亡や施設入所、区分変更などにより利用終了するケースが多くなり、介護支援専門員1人当たりの担当件数は目標値に達しませんでした。

そのような中、関係機関と連携をとりながら困難ケースにも取り組みました。

⑥十日町南地域包括支援センター

年々介護予防プランの作成件数が増加しており、作成事務を効率的に行うため事務員の増配を行いました。その他、大黒沢地区での認知症カフェやケアマネージャー連絡会を立ち上げるなど、地域や関係機関との連携に努めました。

⑦老人福祉センター平成園

指定管理事業については、健康麻雀（麻将）さあくるを試行実施するなど、多様化する利用者ニーズに応える工夫を行いました。生きがいデイサービスについては、認知症予防活動など内容を変えながら、利用実績を若干伸ばすことができました。

⑧障がい福祉サービス事業所エンゼル妻有

12月に2棟目のグループホームを開設し、自立訓練の利用者を地域に移行させることができました。一方で、就労系事業については利用実績は前年並みではあったものの、4月からの報酬単価改定により、減収を余儀なくされました。

⑨障がい者地域生活支援センターエンゼル妻有

相談支援事業においては、サービス等利用計画作成の効率化に向けて、年度後半から業務分掌見直しを図り、作成件数を伸ばすことができました。地域活動支援事業においては、他のサービス利用移行に向けたステップアップの支援を引き続き行いました。

⑩十日町市身体障がい者福祉センター

指定管理事業においては、利用ゲートボール団体が1団体増えたために、実績が伸びました。地域活動支援センターにおいては、前年より若干の利用増となりましたが、利用者の高齢化と重度化の傾向は続いており、利用者の状態に応じた他サービス利用の検討が望まれます。

⑪デイサービスセンターアップルつまり

きたはらデイサービスの閉鎖と年度後半からの個別機能訓練の開始とが重なったことにより、新規利用者を大幅に増やすことができました。それに伴い、特に看護師を中心に職員配置を充実し、利用者の多様なニーズに対応することに努めました。

⑫高齢者専用アパートエスポワールさいわい

年間を通して、入退居はあったものの安定的な稼働実績を上げることができました。また外出活動も徐々に増やし、居室内に閉じこもることのないような環境作りを図りました。